

川柳 さいたま



モクレン

2020年（令和2年）
3月号（No.724）

日川協加盟

巻頭言

日刻刻といひごと

願法みつる

年改まつて早くも三月。トキの流れの速さを年の感慨や月の感傷から、刻の感覚で噛み締めるトシになった。

人に備わる時間の感覚は、五感や六感とは別の宇宙次元の命題でありらしい。字源によれば宇宙の「宇」とは往古来今の全ての時間であり、「宙」とは全空間との由。つまり人間個々の時間感覚も全宇宙の一部である。

結果、刻一刻が一期一会の感傷を実感させてくれたり、極楽から地獄までの十界を瞬時にもあるいは永劫にも巡ったりする。誠にトキとは愉快な命題である。

一方、長短にかかわらず、過去の時間を取り戻せないことへのさまざまな想いが、戯曲や詩歌となって吐露されてきた。それは悦びよりも嘆きの歴史である。どれ程の知や徳を積んでも、人間には悔いや失敗がある。

現今の如き慌たたい世に在っては、過去よりも未来に視点を置かなければならない。未来の時間の長短や空間の広狭も、所詮は人の心の持ちよう一つである。心に余裕を持てる人は、トキや空間を自由に操れる。一刻を無限大にしたり、狭隘な場所に天地の空間を得ることも出来る。

伸びて得られた寿命枠の大事な日一日刻一刻のトキを、川柳漬けで生きるのは何となく勿体ない。川柳とは生死の命題ではないのだから、閑人の心で付き合いたいものだ。トキの長さを自由に操って生きたいものである。・・・と、宣いながら川柳に振り回されているトキである。自戒。

日日是好

願法みつる

不可逆の時の流れに踊る蛇

不老不死そんなアナタは役立たず

老兵が消えた時空はクウである

光速を超えたら酒が不味くなる

だからさあ今はどんどん過去なんだ